

防災減災学術連携委員会（第25期・第8回）

議事要旨

日 時：令和4年8月2日（火）13:00～16:00

会 場：ZOOMを用いたオンライン会議

出席者： 米田雅子（委員長）、安村誠司（副委員長）、田村和夫（幹事）、永野正行（幹事）、  
今村文彦、畝本恭子、大西隆、菊地優、小池俊雄、高橋良和、寶馨、中村尚、  
平田直、目黒公郎、森口祐一、山本あい子、山本佳世子、吉原直樹、若尾政希  
（19名）

欠席者： 齊藤大樹、鈴木康弘、竹内徹（3名）

事務局： 松本拓馬、小山堯

参考人： 上村昇（内閣府大臣官房審議官（防災担当））

<その他の出席者>

府省庁関係：吉田信博（国土交通省 大臣官房参事官（宅地・盛土防災担当））

安田珠幾（気象庁 総務部参事官）

朝田 将（内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（調査企画担当））

木原栄治（内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（防災デジタル・物資  
支援担当））

その他傍聴者、77名

学協会関係：勝見 武（地盤工学会）

橋田俊彦（日本気象学会）

平田直（日本学術会議防災減災学術連携委員会）

森本章倫（日本都市計画学会）

近藤久禎（日本災害医学会）

大友康裕（防災学術連携体、日本災害医学会）

その他（日本学術会議、防災学術連携体）：112名

議 題：

(以下 1)～6)は、第 4 回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」 自然災害を取り巻く環境の変化と防災政策 ～出現した多様な危機への備え～ として開催)

- 1) 開会・趣旨説明
- 2) 来賓挨拶 (内閣府大臣官房審議官 (防災担当) )
- 3) 「出現した多様な危機への備え」に関する政策について
- 4) 「出現した多様な危機への備え」に関する学会からの発表
- 5) 全体意見交換
- 6) 閉会挨拶

(以下は防災減災学術連携委員会委員のみにて審議)

- 7) 前回議事要旨の確認
- 8) ぼうさいこくたい 2022 における公開シンポジウムの企画案について

配付資料：

- 資料 1 前回議事要旨 (第 25 期・第 6 回)・・・(第 7 回はメール審議のため議事要旨略)
- 資料 2 シンポジウム等の概要について (事後報告) (2022 年 5 月 9 日分)
- 資料 3 ぼうさいこくたい 2022 関連シンポジウム企画案
- 資料 4 防災減災学術連携委員会 (第 25 期・第 8 回：府省庁との連絡会) \_\_参加者構成

議 事：

- 1) 開会・趣旨説明
  - ・米田雅子委員長より、開会の挨拶と趣旨説明があった。
- 2) 来賓挨拶 (内閣府大臣官房審議官 (防災担当) )
  - ・内閣府 (内閣府大臣官房審議官 (防災担当) ) の上村昇氏より、本会開催に向けてのご挨拶があった。
- 3) 「出現した多様な危機への備え」に関する政策について
  - ・府省庁から、以下の 4 件の発表があった。
    - 盛土規制法について
      - 国土交通省 大臣官房参事官 (宅地・盛土防災担当) 吉田信博氏
      - 線状降水帯の予測精度向上に関する取組みについて
        - 気象庁 総務部参事官 安田珠幾氏

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策について

内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（調査企画担当） 朝田 将氏

デジタル技術を活用した防災対策について

内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（防災デジタル・物資支援担当）

木原栄治氏

4) 「出現した多様な危機への備え」に関する学会からの発表

・学会より以下の4件の発表があった。

盛土をめぐる課題について 地盤工学会 勝見 武氏

地球温暖化と気象の変化 日本気象学会 橋田俊彦氏

日本海溝・千島海溝沿いを含む日本を取り巻く巨大地震とそれらへの対応

日本学術会議 防災減災学術連携委員会 平田 直氏

都市計画と防災の今後 日本都市計画学会 森本章倫氏

災害時の病院の籠城戦略 日本災害医学会 近藤久禎氏

5) 全体意見交換

・米田委員長の司会により、以下の意見交換が行われた。

（小松氏（九州大））線状降水帯が頻発している一番の理由はなにか。九州で発生する線状降水帯の方向が日本への風の流入方向とは異なる東西方向なのはなぜか。

（安田氏）海面水温の上昇などが様々な要因が考えられているがはっきりした理由はわかっていない。線状降水帯の方向に関しては前線の影響もあるが、メカニズムについては今後解明していく必要がある。

（久田氏（東京建築士会））盛土は地震対策がされているのか。被害想定では最大規模に加え現実的な規模のものも考えるべきではないか。

（吉田氏）盛土については、地震のことも考えている。

（近藤氏）震度の割に被害が少ないと感じている。

（平田氏）確率を入れてリスクを評価すべきと考えている。

（嘉門氏）盛土は不適正に盛土されるのが問題ではないか。責任の所在の明確化、実効性のある罰則を設けることについて、今後の方策について説明していただきたい。

（吉田氏）不法盛土のガイドラインをつくり、問題あるものに対する措置が進められるようにしていくことを用意する予定である。

（大友氏）物資支援システムを用いて情報共有を行うのはよいが、物資の仕分け・配送が課題と思う。

（和田氏）都市計画分野は頑張っ欲しい。

6) 閉会挨拶

防災学術連携体代表幹事の太友康裕氏より、本連絡会の内容について要約があり、閉会のご挨拶があった。

(以下は防災減災学術連携委員会委員のみにて審議)

7) 前回議事要旨の確認

・田村幹事より、前回議事要旨の確認があった。また、公開シンポジウム「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」の事後報告もあり、総参加者が 1285 名（会場 20 名＋Zoom Webinar 1137 名＋YouTube 128 名）であったことが報告された。

8) ぼうさいこくたい 2022 における公開シンポジウムの提案について

・米田委員長・田村幹事より、ぼうさいこくたい 2022 のセッションとして、公開シンポジウム「自然災害を取り巻く環境の変化 ～防災科学の果たす役割」を 10 月 22 日（土）の 16 時 30 分から 18 時に開催することの提案があり、承認された。

・上記のぼうさいこくたいのセッションシンポジウムと同じテーマで、防災学術連携体の特別シンポジウムを同日 10 月 22 日の 18 時 15 分から開催することの説明があった。

・最後に、委員の先生方より、感想・意見等の発言があり、委員会を終了した。

以上